

男女のよりよいパートナーシップを

Can

杉並区立男女平等推進センター情報誌

2019年
61号

区主催の性的マイノリティ理解促進講座で講師を務めていただいた原ミナ汰さんにお話を伺いました。 学校で、職場で、地域で、「性の多様性」をどう受けとめるか ～LGBTQにみる多様な生き方・暮らし方～

NPO法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク代表理事、LGBT法連合会共同代表

原 ミナ汰さん Minata Hara

2008年に立ち上げた「共生ネット」で、LGBTQの人々やその家族への相談・支援を本格化。「よりそいホットライン」セクシュアル・マイノリティ回線統括コーディネーターを務め、国・自治体職員、教員、援助職者向けに、全国500か所以上で「性の多様性」研修の講師を担当している。

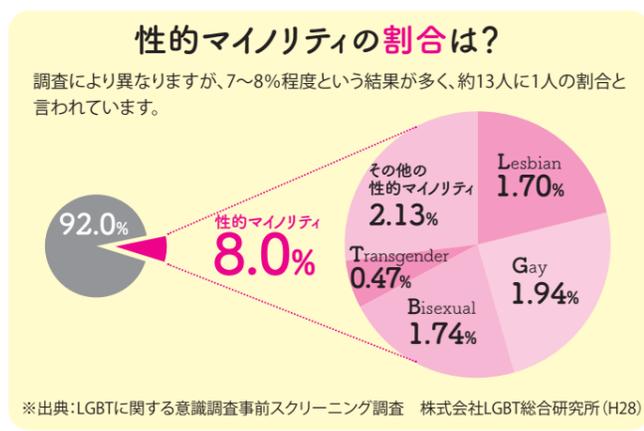


近年テレビや新聞で頻繁に取り上げられ、テレビドラマの主人公として登場するようになった「LGBT」。Lはレズビアン↓女性に惹かれる女性、Gはゲイ↓男性に惹かれる男性、Bはバイセクシュアル↓男女問わず惹かれる人、Tはトランスジェンダー↓性別の境界を越えて生きる人、の頭文字を連ねたもので、性的マイノリティの多様性の代名詞となっています。

性の多様性を語る時、「自分は男だ」「自分は女ではない」など、自分の性別に関する確信を「性自認」、「どの性別の人に惹かれ、どの性別に惹かれないか」というのを「性的指向」と呼びます。どちらもすべての人に備わっている要素ですが、つい最近まで、人は皆「生まれてから死ぬまで同じ性別で生きる（シスジェンダー）」、「思春期になれば自ずと異性に惹かれる（異性愛）」のが当然とされてきました。確かに、自分が男か女かに迷いがなく、思春期になると異性に心が行く人が多数派ですが、そうでない人も確実にいます。電通、博報堂など民間大手による近年のウェブ調査では、8%、8.9%、つまり12、3人に1人はこれまでの社会通念に当てはまらない性を生きている、との数字が出ています。

LGBT＝性的マイノリティの人々の総称です

LGBTという個々のくくりを超えて、さらに細かくみてみると、最初の三文字「LGB」は「性的指向」にかかわる概念ですが、性的指向には他にも「性的欲求を感じない」、「性的関係に関心がなく」、「恋愛に関心がなく」など多様な形があります。四つ目の頭文字「T」は「自分はどの性別認識をもっているか、いないか」という「性自認」の多様性で、「性同一性障害」の診断を得て、反対の性に性別移行する人々が最も有名ですが、特に若者を中心に「どちらの性別の自認もある、



男女平等推進センターからのお知らせ

～令和元年度 男女平等推進センター講座を紹介します～

講座名・企画運営団体	内容	日時	会場
夫婦の力を磨いて賢い子どもを育もう NPO法人親子コミュニケーションラボ	3歳からの性教育～命の大切さの伝え方 講師：親子コミュニケーションアドバイザー 天野ひかり	12月7日(土) 午前10時～12時	浜田山会館 第1・2集会室
	パパが作るイタリアンでママをおもてなし 講師：兼業主夫・放送作家 杉山ジョージ	1月11日(土) 午前10時～12時	高井戸地域区民センター 料理室
	オリジナルの父子手帳を作ろう！ 講師：東京大学名誉教授 汐見稔幸	2月8日(土) 午前10時～12時	浜田山会館 第1・2集会室
パパと学ぶ・考える 思春期の子育て Creo(くれお) ☆今年度の講座は終了しました	思春期と性と生 講師：日本思春期学会名誉会員 村瀬幸浩	7月20日(土) 午前10時～12時	杉並第四小学校
	読みとく！LGBTと性の多様性 講師：早稲田大学准教授 森山至貴、大学院生 佐藤由衣	8月10日(土) 午前10時～12時	
	学校に行かない、行きたくない 講師：NPO法人青少年自立援助センター常務理事 河野久忠	9月1日(日) 午後1時30分～3時30分	
すぎなみダブルケア講座 NPO法人こだまの集い	「ダブルケア」を知ろう！ 講師：看護師 室津瞳、社会福祉士 森田亜希恵	9月30日(月) 午前10時～12時	ゆうゆう高円寺東館
	「ダブルケア」ってお金はいくらかかるの？ 講師：ファイナンシャルプランナー 木村誠	10月29日(火) 午前10時～12時	
	「ダブルケア」をこうして乗り越えた！ 講師：看護師 室津瞳、社会福祉士 森田亜希恵	11月29日(金) 午前10時～12時	
「子育ても仕事も楽しむ」スタートアップ講座 こどもコワーキングbabyCo	【直木賞作家に聞く】子育てと仕事の両立 講師：作家 島本理生 キャリアカウンセラー 曾山恵理子 ※台風のため10/12から変更	12月14日(土) 午前10時～12時	セシオン杉並 視聴覚室
	【どうする？保育園】保育園の入園制度を知ろう！ 講師：キャリアカウンセラー 曾山恵理子	11月6日(火) 午前10時～12時	セシオン杉並 第1・2和室
すべての子どもが輝くために ～学校と男女平等～ 杉並女性団体連絡会	隠れたカリキュラムとジェンダー平等教育 講師：(公財)日本女性学習財団理事長 村松泰子	11月10日(日) 午後1時30分～4時	産業商工会館 展示場
	幸福な人生を保障する必須の教養としての性教育 講師：女子栄養大学名誉教授 橋本紀子	11月16日(土) 午後1時30分～4時	

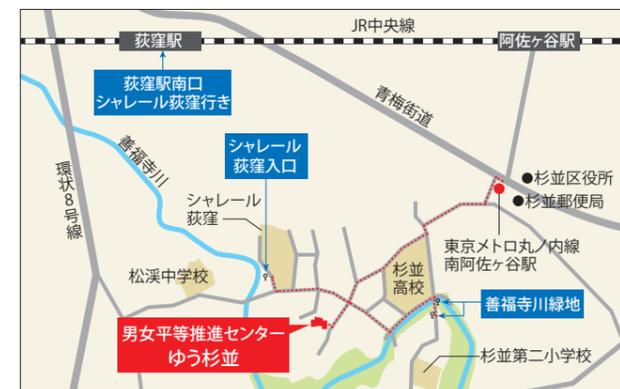
※講座に関するお問い合わせは、男女共同・犯罪被害者支援係(電話：5307-0326)へ。申込、実施が終了している講座もあります。

自分らしく生きられないと感じたときに ご相談はすべて無料です

一般相談・DV相談 平日9時～17時
(祝日・年末年始を除く)

ひとりで悩まずご相談ください。専門の相談員が相談をお受けします。面接による相談(要予約)も行っています。

<p>一般相談 TEL.03-5307-0619 家族、生き方、人間関係、性的マイノリティ、 ストーカー、セクハラなど</p>	<p>DV相談 TEL.03-5307-0622 配偶者、パートナー、恋人からの暴力</p>	<p>法律相談 TEL.03-5307-0619 (毎週木曜日午後、月1回夜間相談) 離婚、養育、財産分与など、女性弁護士が面接で相談をお受けします。 対象は杉並区在住・在勤・在学の女性。お電話で予約をお受けします。</p>
--	---	---



〒167-0051 杉並区荻窪一丁目56番3号 TEL.03-3393-4410

■開館時間
9:00～17:00

■休館日
月曜日(祝休日の場合は、翌日)
12月28日から1月4日まで

- 関東バス 荻窪駅南口発
シャレール荻窪行→「シャレール荻窪入口」下車→徒歩5分
- 杉並区南北バス「すぎ丸」けやき路線
JR阿佐ヶ谷駅→井の頭線浜田山駅
「善福寺川緑地」下車→徒歩10分
- 東京メトロ丸ノ内線
「南阿佐ヶ谷駅」下車 徒歩15分
※駐車場はありません。

男女平等推進センターへの道順はこちらも参照してください→



交流コーナー





杉並区では、人権問題の一つである性的少数者(性的マイノリティ)に対する差別や偏見が解消され、多様な性について正しい認識と理解が促進されるようリーフレットを作成しました。区施設を中心に配布します。区の取組については、ホームページからもご覧いただけます。
<https://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/kusei/jinken/1051403.html>

相談窓口
 杉並区の相談窓口

男女平等推進センター 一般相談 家族・生き方・人間関係など悩み全般 ☎03-5307-0619 <small>相談時間/9:00~17:00(土・日・祝日・年末年始を除く)</small> 性的マイノリティに関する悩み、親子・家庭の問題、恋愛、結婚、離婚、職場等での人間関係、セクハラ、自分自身の生き方など。	心の健康相談 / お住まいの管轄の保健センター 荻窪保健センター ☎03-3391-0015 高井戸保健センター ☎03-3334-4304 高円寺保健センター ☎03-3311-0116	上井草保健センター ☎03-3394-1212 和泉保健センター ☎03-3313-9331 <small>8:30~17:00(土・日・祝日・年末年始を除く)</small>
--	--	--

その他の相談電話

東京都性自認及び性的指向に関する専門電話相談 ☎03-3812-3727 <small>(毎週火曜日・金曜日 18:00~22:00 ※祝日・年末年始を除く)</small>	よりそいホットライン <small>(一般社団法人社会的包摂サポートセンター)</small> ☎0120-279-338 <small>(フリーダイヤル) (24時間受付)</small>	セクシュアルマイノリティ電話法律相談(東京弁護士会) ☎03-3581-5515 <small>(毎月第2・第4木曜日 17:00~19:00 ※祝日の場合は翌金曜)</small>
---	--	---

LGBT理解促進リーフレット

『性的マイノリティについて知ろう!映画&講演会』を開催しました。
 ~主催:区民生活部男女共同参画担当~

原ミナ汰さんの講演「LGBTにみる多様な生き方、暮らし方~今必要なのは、理解より気づき」と映画「彼らが本気で編むときは、」(脚本・監督:荻上直子)の上映を令和元年9月7日に杉並区役所で行いました。午前(映画のみ)・午後(講演&映画)の部を合わせて、140名の方にご来場いただき、関心の高さがうかがえました。



参加者アンケートより

多様性の理解が進んでいる中、まだまだ偏見や差別があり、つらい思いをしている人が多くいることを知った。

LGBTの人たちがどんなふう悩んでいるのか、また悩んでいる子を支える人の様子がよく描かれている。

男と女と性別のくくりではなく、人と人のつながりがとても大切だと改めて知ることができた。

原さんの語り口が楽しく、内容も濃く、ご自身の体験を交えてのお話がよかった。「無意識にLGBTの人をない存在にしないように」と話されたことが印象的だった。

など

「デートDV防止講座」をご希望の学校で実施します。

デートDV(交際相手からの暴力)を防止するための意識啓発を目的とした講座を区内学校(中学校・高等学校・大学など)で実施します。男女平等の大切さ、暴力をふるわないこと、相手の人権を尊重する関係づくりなどについて考える機会としていただくものです。

実施については
 区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援係まで **☎03-5307-0326**

お気軽にお問い合わせください



「どちらの性別にも属さないと感じる」「性別が流動的」などで、「X(エックス)ジェンダー」と名乗る人も増えています。また、「自分の性的アイデンティティはなに?」「周囲に同調しづらいがLGBTのどれでもない」「迷っている」「決めつけたくない」と感じている人も多く、LGBT「Q」(クエスチョニング、クイア)というとりえ方も重要です。

性的マイノリティを見守るその家族も実はたいへんです。周囲の心ない言葉に人知れず傷つき、思わず本人を責めてしまったり、どの立場で取り組めばいいのか迷ったりしたときは、地域の温かい受けとめやサポートが必要です。

「必ず身近にいる」と思うこと

LGBTと聞いて「そんなにいるの?」「言葉は知っているけれど、知り合いは誰もいない」と思う人は多いと思いますが、現実には、からかいや否定的な対応をされるのが苦痛で、つい言いそびれてしまい、いつの間にか「いないこと」にされているだけ。本当は意外と身近な存在です。私は30年ほど前、高円寺のパル商店街に性的マイノリティの集まれる小さな店を開いていて、週末にはいつも満員でした。実はこの「身近にはいない」という思い込みこそ「偏見の一種」で、からか

いや陰口の発生の温床となつていのです。実際に側にいるのに「いない」と思われ、黙って自分の悪口を聞いているのは、とてもつらいこと。

2019年5月末に成立した労働施策総合推進法改正(いわゆるパワハラ関連法)の附帯決議でも「性的指向・性自認に関するからかいや、暴露などはパワハラにあたる」ことが明示され、今後企業に取り組みが義務づけられることになりました。まずは学校、地域、職場など、どんな場面でも、自分が知らないだけで「LGBTは必ずいる」と思ってください。「身近にいる」と思うだけで、何気なく物笑いのタネにするハラスメントがぐんと減り、安心できる生活環境となります。

「アライ(味方)になる鍵は、決めつけないで、きちんと対話を」

当事者に心を寄せて理解したい、あるいは支えたいと思う人のことを「アライ」と呼んでいます。マイノリティ集団はよく一括りにされがちですが、



誰しも自分以外のことはよくわかりません。例えば、「障がいのある人」同士でも、身体が精神か、内部障害、感覚器の障害、視覚や聴覚の障害など皆多様ですし、体験していないことは、改めて学ぶ必要があります。LGBTも同じで、他者のことはいまひとつわからないので、人それぞれの状況と感じ方の違いを知って、初めて互いのアライになれるのです。誰かのアライになるときの鍵は「何事も決めつけず、きちんと対話すること。これがとても大事です。これさえ実践すれば、「Tはたいへんだけれど、LGBTは支援しなくていい」などの発言が、単なる知識と体験の不足から出たものだとわかるでしょう。

性的マイノリティは、性的指向や性自認こそ違うが、基本的に性的マジョリティと変わらない

一番大事なのは、性的マイノリティの発達過程は、それ以外の人々とそれほど変わらない、ということ。皆さんが「ボクは男の子だ」「ワタシは女の子だ」と感じたのはいつ頃でしたか?多くの人は「ものごとこころついたときから」と答えます。「初恋はいつ頃?」と聞くと、「二次性徴を境に「早熟」な人も「遅咲き」の人も、「まだ」という人もいます。こうした傾向は性的マイノリティも同じ。あてがわれた性別に違和感をもち「自分の性別はこっち

だ」という感覚は、早くは幼児期から芽生えるようです。学齢期のうちに「異性より同性に惹かれる」「自分の性は周囲とどこか違う」と感じる子も過半数を超えるとの調査結果も複数出ています。

性的マイノリティの電話相談で、悩みの8割は人間関係についてですが、一般の電話相談でも、やはり人間関係の悩みが8割でトップです。違うのは10代、20代からの相談が倍以上あること。性にまつわる悩みがいかに友人や家族に相談しにくいか見てとれます。だからこそ学齢期から、一緒に考えてくれる大人や先輩がぜひとも必要といえるでしょう。周囲の人々が「世の中は男と女の二種類しかない」とか「異性愛でなくちゃダメ」という固定観念から少しでも自由になり、「そうでない子もいていいんだ」というバランスのよい考え方に至るには、ジェンダー(社会規範としての性別)やセクシュアリティ(ヒトの性のありよう)に関する十分な知識と、柔軟な思考が不可欠です。

このたび杉並区でも、性の多様性についてのリーフレットの配布が始まりました。住民の皆さんの温かさは今も昔も変わりませんが、つくづく時代の移り変わりを感ずります。区内に暮らす大勢の性的マイノリティとその家族と共に、よりよい生活環境づくりを進めただけできれば嬉しいです。